

1. 主審のカウント、アナウンスの例

「アウト」「フォールト」は「直ちに」「大きな声で」「はっきり」とコールする。

ポイントが決まったら直ちに「15-0 (フィフティーンラブ)」とか

「アドバンテージ〇〇高校」などとアナウンスする。

A高校がゲームを取ったら「Game A高校、B高校 leads 3-2 (Three-Two)」とか

「Game A高校、6 (games) all」などとアナウンスする。

タイブレークでは常に大きい数字から読み、次にリードしている高校名を言う。

「1-0 (one-zero) 、A高校」 タイブレークでは0はloveではなく zero と言う。

「3 all (Three all)」などとアナウンスする。

サービスレットの時は「レット」のコールの後「ファースト(またはセカンド)サービス」と言う。

「ダブルフォールト」のコールはしない。「フォールト」のみ。

2. 主審の進行にあたっての注意

- ・ポイント間は20秒。エンドチェンジは90秒。60秒だったら「Time」とアナウンスする。
- ・ケガをした場合、副審は直ちに本部に連絡をする。レフェリーの立会いのもと、3分間の治療時間が認められている。主審が治療のタイムを計る。
ただしケイレンはケガではないので、他人の助けを受けた場合は失格となる。
- ・オムニコートではボールマークのチェックは出来ない。選手にいわれてもチェックしないこと。選手はネットを越えて相手コートのボールマークの確認はできない。
- ・ミスジャッジをした場合、「Correction, the ball was out (または in)」と訂正する。
これは自分自身の判断で行い、選手や応援の言動に左右されてはいけない。
- ・インプレー中にボールがプレイゾーン入ってきた場合は、ただちに「レット」とコールしてプレーを停止させ、ファーストサーブからやり直す。
ただしコートのだいぶ後ろ、またはネット際でプレーに支障がない場合は、そのまま続行する。
- ・第2サービスのモーションの前に隣のコートからボールが転がってきた場合、妨害とは判断しない。
ただしサーバーが第2サービスのモーションに入った後に、ボールが入ってきた場合は第1サービスからポイントをやり直す。
- ・インプレー中にラケット以外の持ち物をコートに落とした場合、「レット」をコールしてプレーを止め次に何かを落としたら失点(相手のポイント)になることを確認する。
- ・サービスラインと副審の側のサイドラインは副審の判定を重んじるが、主審の側のサイドラインとベースラインについては、主審が責任を持ってジャッジする。(副審は低い位置から見ているので判断できない)

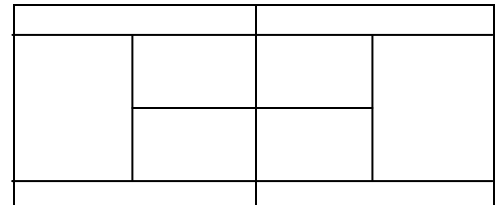
3. 副審の進行にあたっての注意

- ・サービスラインのフォールトは直ちにフォールトした側の腕をはっきりとあげる。
- ・インプレー中をハンドシグナルで示し、自分の側のサイドラインのアウトのみ手をはっきりと上げる。
- ・何かトラブルが発生したら、副審がレフェリーを呼びに行く。
- ・誇りを持って、大きな声で堂々とコール、アナウンスをすること。
- ・きわどいボールは、主審・副審ともにグッドのハンドシグナルを示す。
- ・ラリーの往復を見ないで、ボールの落下点(ボールマーク)だけを目で追う。
- ・副審の判定が明らかに誤りであるとき、主審は訂正できる。
- ・スコアシートの記入が正しくできるようにしておくこと。
- ・服装は選手に準じたテニスウェアであること。長い髪の場合は束ねる。 ▲

2009年度版 審判の進め方 (中信研修大会用) 中信地区テニス専門部

団体戦開始 (進行はダブルスの主審)

1. ダブルスのコート、審判台下のネット際で選手を待つ。
待つ間にネットの高さ、シングルススティックなどを確認する。
シングルス1・2の審判も横に並ぶ。
主審は、100円玉を1個持っていく。



○ ○ ○ ○
S1 審判 D1 審判 S2 審判

台

2. 両校の選手・監督をサービスラインに並ばせる。

「サービスラインに整列してください。」

3. 挨拶・選手紹介

「両校は前に進んでください。」

「ただ今より○○高校と○○高校の試合を始めます。両校礼！」

「オーダーの交換をお願いします。(番号の小さい)○○高校の代表者よりメンバーの紹介をお願いします。」

「○番コートにダブルス、(○番コートにシングルス1)が入ってください。」

(シングルス2があればそのコート番号も言うこと)

トス・練習・試合開始

4. 両選手を呼んでトス(100円コイン使用)を行う。番号の小さい高校の選手に選択してもらう。
「トスを行います。フラワー(花)か、ナンバー(数字100)かを教えてください。」
トスに勝った選手が「サーバーかレシーバー」を選択した場合、負けた方はエンド(コート)を選択できる。
エンドを選択した場合、負けた方は「サーバーかレシーバー」を選択する。
5. サーバーの名前、高校名を確認し、審判用紙の「Server Side」に頭文字を記入する。
ダブルスの場合、レシーブする位置を確認し、「Doubles receivers」にも4人の頭文字を記入しておく。
6. 練習開始。ボールを選手に渡す。練習後すぐに試合のできる服装で練習をするように指示する。

「練習はサービス練習4本です。始めてください。」

審判用紙に必要事項を記入する。

サービス練習が終わったら、

「ただ今より、○○高校対○○高校ダブルス(or シングルス 1or2)の試合を開始します。審判台右側 ○○高校○○(苗字)・○○ペア。(シングルスの場合○○選手。)審判台左側 ○○高校○○・○○ペア。先ほどのトスの結果○○高校○○選手がサーバーとなりました。」

その後20秒以内に試合を開始する。

7. 試合開始。詳細は「審判の心得」参照。

「One Set Match, ○○(高校名) to Serve. Play!」 とにかくコールは大きな声で!

「Game ○○(高校名)、First Game.」 セットブレイクではないので休憩できる。

カウントは「Game ○○、○○ leads 3-2 (Three-Two)」のように言う。

8. ポイント間は20秒。エンドチェンジは90秒。60秒たったら「Time」とアナウンスする。

9. ゲーム終了 **「Game, set and math ○○(高校名)、Score is 6-4」**

審判は、両校選手から「審判相互評価用紙」に記入をしてもらう。

審判用紙に勝者からサインをもらい、審判・副審は「審判用紙」・「審判相互評価用紙」(本部提出用)・「オーダー用紙」(審判提出用)を持って本部に行く。

コートの後ろで待機していた次の試合の審判は、すぐコートに入る。

団体戦終了

リーグ戦は3試合すべて行う。トーナメントはポイント決定時点で打ち切り。

コート外にいるその団体戦の審判員(例えばD・S1の)は団体戦の勝敗・スコアを最終試合の審判に連絡する。

最終試合の審判と副審は両校をサービスラインに整列させる。

「両校選手は前に進んでください。○○高校と○○高校の試合は、2対1で○○高校が勝ちました。両校礼!」 審判用紙を持って本部に行く。

困った時

審判はその場を離れず副審に コートレフェリーを呼んできてもらうこと。